

ティーチング・ステートメント

所属 商学部経営情報学科スポーツマネジメントコース

名前 加藤 英一

作成日 2020年10月1日

【責任】

商学部経営情報学科スポーツマネジメントコースに所属する。専門分野は、社会学と倫理学である。主な担当科目は、社会学、倫理学、倫理社会学1（スポーツマネジメントコース必修科目）、倫理社会学2（日本スポーツ協会資格対応科目）である。その他として社会力基礎演習3・4及びアカデミックアドバイザーとしてゼミナール、プロジェクト研究を担当している。また学術専門部会に所属しており、主に大学における研究推進活動を担当している。

【理念】

人格の形成に関しては、大学を卒業した者として社会人としての常識を身につけることは当然のこととして、本学の建学精神である「安じて事を託される人となれ」と述べられているように他者から信頼される人物になってほしいと希望する。また更に人々からの信頼のもと、社会においてリーダーシップをとれる人物に成長して欲しい。

学問的側面に関しては、やはり大学を卒業した者として学問そのものの面白さを理解することを通じて、より豊かな人生を過ごしてくれることを希望する。特に学問の中でも社会学と倫理学は、社会の仕組みや集団、人びとの間のコミュニケーション、そして価値や価値観を取り上げており、人間が社会の中で生きることを学ぶのに最適である。そこで大学時代には、社会学及び倫理学の基礎知識を習得し、その知識を基に現代社会の諸問題の理解を深めて欲しい。

【方針・方法】

上記理念を実現するため、「社会人としての常識を身につける」、「学生のレベルおよび需要に合わせた授業内容」、「基礎知識と共に最新の学問内容を授業に反映させる」「質の高い授業の提供」という方針の下、教育を行っている。以下に各々の方法を記する。

方針1 「社会人としての常識を身につける」

1. 生活面でも学生の模範となるように、教員自身がルールを厳守する。
2. 授業開始時間及び終了時間を厳守する。
3. 可能な限り授業開始時間の5分以上前に講義室に入室する。
4. 学生に対して提出物等のルール及び期限を厳守させる。

方針2 「学生のレベルおよび需要に合わせた授業内容」

1. ゼミでは学生の関心に基づいて毎学期テキストを決めて、輪読し学生にレジюмеを作成させたうえで各人にプレゼンテーションを課している。
2. 学生が報告した内容について、ポイント、表現方法を指摘したうえで、社会学及び倫理学的視点からコメントを行っている。
3. 講義形式の科目に関しては、既成のテキストは使用していない。既成のテキストは一般的ではあっても、必ずしも目の前の学生に合っているわけではない。そのため学生のレベルおよび需要に合わせた内容でレジюме（各科目50ページ程度）を作成・配布して授業を行っている。
4. 学生に配布するレジюмеは、重要な個所を空白にし授業中に埋めるようなワークブック形式にして、学生が飽きないように工夫している。

方針3 「基礎知識と共に最新の学問内容を授業に反映させる」

1. 社会学及び倫理学の基礎知識に関しては、特にテクニカルタームを中心に教授し学生の理解を深める。
2. 新聞等の情報を題材として、その内容を社会学及び倫理学の視点から学生に対して説明を試みる。
3. 社会学及び倫理学における先端研究を、学生が理解できるように図や表、写真などをまじえて分かりやすく解説する。またそれに伴いレジюмеを常に更新していく。
4. 授業を立体的にするために、最新の映像等を授業に取り入れる。

方針4 「質の高い授業の提供」

1. 中学校や高等学校とは異なり、大学での教育は研究を基盤としている。そのため大学の教員は、教育者であると共に研究者でなければならない。大学の教育の質は、教員の研究能力に比例する。このことから常にとどまることなく研究を進めていく。
2. 社会学及び倫理学の研究を分かりやすく授業に応用する。
3. 研究内容をまとめて、研究論文を執筆・投稿する。
4. 学会等の活動に積極的に参加する。

【評価・成果】

1. 授業評価での学生からの好ましいコメントを確認している。
2. 対面とは異なったオンライン授業でのメリットとデメリットを把握したうえで、学生と意見を交わしながらメリット面を伸ばすと共にデメリット面を改善中である。

3. 研究論文3本を商大論集に投稿中である。

第1論文 タイトル：「スポーツマンシップの意義」

第2論文 タイトル：「スポーツ参与とその要因－『スポーツの実施状況等に関する世論調査』からみえたもの－」

第3論文 タイトル：「女性のスポーツ参与について－『スポーツの実勢状況等に関する世論調査』からみえたもの－」

【目標】

1. 学生が社会の諸問題に対して、社会学及び倫理学の視点から自らの意見を言えるようにする。
2. 学生のコミュニケーション能力、特に論理的思考能力を伸ばす。そのためには、基本となる書籍を正確に読み取る能力とそれを他者に伝えるプレゼンテーションの能力をつけることができるようにする。
3. 中・長期の目標となるが自らの研究をまとめて書籍を出版する。
4. 学内における研究活動の活発化を促す。